

目指すべき社会像について

検討に当たっての視点

第3次環境基本計画で目指すべき社会のあり方としての持続可能な社会という言葉で何を議論の対象とするか。特に社会的側面として何を考えなければならないのか。環境と経済の好循環ビジョンにおいても「健やかで美しく豊かな環境先進国」を目指すとしているが、環境と一体となって考えるべき広い意味での「豊かで安心できる暮らし」の要素としてどのようなものが考えられるか。

持続可能な社会のためにどのような役割が地域社会、コミュニティに求められるか。そのために、どのような地域社会、コミュニティの有り様が望まれるか。逆に、環境の状態や環境保全のための活動がそのような地域社会、コミュニティを作っていく上でどのような意味を持つのか。

社会資本形成、自然とのふれあいや自然資源の活用と地球温暖化防止、都市の環境保全や自然生態系の保護のバランスをとりつつどのような国土をつくっていくべきか。

民間でできることは民間で、という政府の方針に対し、持続可能な社会づくりの観点から国や地方公共団体はどのような役割を果たすべきか。特に、多数の主体が原因となる環境問題が増えている中、行政がどのような形でどこまで関与していくことが望ましいと考えられるか。

人口減少等の社会状況の変化の中で、過去に示された目指すべき社会像について、現在でも残すべき部分と変えるべき部分としてどのようなことがあるか。どのような社会的な変化を重視して今後の社会像を考えていくべきか。

価値観に関わる選択が必要になってくる中で、国民や地域住民が政策決定過程にどのようなかたちで関わっていくことができる社会が望まれるか。

国際社会の中での日本が果たすべき役割という観点からどのような社会が望まれるか。

独特の文化を持ち、歴史的知恵の蓄積も持つことを踏まえ、世界史的な役割としてこれからの日本がどのような社会を目指すべきと考えるか。

以上の視点を踏まえつつ、以下のような観点からも議論をお願いしたい。

- (1) 現行の環境基本法の「環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会」及び環境基本計画の「持続可能な社会」に欠けている視点はないか？
- (2) アジェンダ21においても社会、経済的問題及び環境問題に関する配慮が十分に統合されて意思決定が行われることや持続可能な開発のための国家戦略の策定を求められている中、昨年に当部会で決定した「環境と経済の好循環ビジョン」に欠けている視点はないか？特に、歴史、文化等といった価値を踏まえつつ、社会的な側面と環境との関係についてもっと掘り下げて考える必要があるのではないか？
- (3) 目指すべき将来像を各主体にわかりやすく伝えるためには、どうすればよいか？特に、現行計画の「持続可能な社会」はわかりにくいのではないか？